

適塾
(大阪市中央区)

ザ・見遊じあむ

25



ヒルの谷間にある「適塾」

ミュージアムメモ

▶所在地／大阪市中央区北浜3-3-8 ▶入館料／一般250円、学生130円、生徒70円 ▶開館時間／午前10時～午後4時 ▶休館日／月曜日(祝日の場合は開館)、国民の祝日の翌日(土日の場合は開館)、年末年始(12/28～1/4) 交通／大阪市地下鉄または京阪電車の「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩5分 ▶問い合わせ／06-6231-1970

に生まれ、16歳の頃父の転勤に伴い大坂に出て、翌年蘭学塾に入門。医師になる決意をし、江戸で蘭学を学び長崎へ遊学後、大坂へ戻り適塾を開きました。1862年(文久2年)8月、徳川家茂の奥医師、そして西洋医学所頭取に任命され江戸へ。「医学のため、子孫のため、討死の覚悟」で大坂を離れたといわれます。その翌年6月10日、突然大量の血を吐き急死。54歳でした。1941年(昭和16年)に国の史跡に指定され、1964年(昭和39年)には国の重要文化財に指定されています。適塾に隣接する公園の一角に緒方洪庵の銅像があります。

人材を輩出した緒方洪庵の私塾

適塾の内部は、当時のようすが復元されています。蘭書の予習のために塾生が使用した辞書「ゾーツ・ハルマ」が展示してあるツーツ部屋。塾生はこの部屋で奪い合って使用したといわれています。塾生が寝起きした2階の大部屋には、現存する塾生の「姓名録」が展示してあります。塾生は日本全国から集まり、その数は1000人にも達していました。

「北極のナヌー」



厳しい環境変化を生き抜く
白クマの物語

北極。ユーラシア大陸と北アメリカ大陸をつなぐマイナス50度の氷の世界。それが北極です。165万年前の氷に覆われた厳しい自然であるはずの北極がいま、地球温暖化の影響を受けて急速に変化しつつあります。北極では過去30年間に、168万平方キロもの海水が消滅したといわれています。これは日本の国土の4倍もの面積です。そして今後の30年間で北極は消滅するという人もいます。

この環境変化の激しい北極で生まれた白クマ。生きるために苦難を乗り越えていく姿を、ドキュメンタリー映像で追っていきます。北極の春、白くまの赤ん坊ナヌーと双子の弟が、雪と氷で覆われた穴から顔をのぞかせます。半年の間、何も食べない母親の白クマとナヌーはえさを求めて旅立ちますが、地球温暖化の影響で氷が溶け出し、エサの狩場は少なくなっていました。エサにありつけず飢えそうになり、激しいブリザードにさらされる中、ナヌーの小さな弟は力尽きてしまいます。海洋研究家アダム・ラヴェエツチと、ドキュメンタリー映像作家サラ・ロバートソンが監督を務め、構想から10年をかけて完成させました。

現在、北極の白クマは約1万頭といわれています。ナヌーとは、イヌイットの言葉で白クマのこと。日本語版のナレーションはスマップの稲垣吾郎さん。10月6日から全国で公開中。

このシネマ

ガレいナ

大阪の戦跡を歩く

第24歩

三光神社
(大阪市天王寺区)



空襲で破損した
鳥居が今も

もともとは、姫山神社と称されていましたが、全国的に、真田山の三光という名称が有名になり、今は三光神社と称しています。境内には真田幸村の抜け穴と呼ばれる穴があり、かつては、大阪城に繋がっていたと伝えられています。

1945年(昭和20年)6月の空襲で社殿を始め建物一切が焼失しましたが、戦後5期にわたる再建工事が行われ、現在の形に復興しています。空襲で損壊した鳥居の一部が、新しい鳥居と並んでいます。また、境内は桜の名所として知られており、江戸時代は風光明媚な景勝地で、「摂津名所図会」で紹介されています。

表題の言葉は高杉晋作の辞世の句として知られています。「面白きこともなき世を面白く」の下の句は看病していた幕末の女流歌人で勤王派の野村望東尼が「すみなすものは心なりけり」とつけたと言われています。高杉晋作は1839年9月27日長州藩士に生まれ、長州藩の尊王倒幕の志士として活躍。奇兵隊などを創設し、幕末に長州藩を倒幕に方向付けました。1867年、幕府軍との戦いのさなかに肺結核で没しています。わずか28年の短い生涯でした。死後1年で世は明治に移りました。

河内 和泉 三國誌

25
(太子町)

竹内街道は日本最古の国道

太子町の六枚橋から少し山手に入ると、竹内街道の石碑が建っています。竹内街道とは、堺市の大小路から河内平野を東へ向かい、二上山の南の竹内峠を越えて、奈良県高市郡麻町の長尾神社にいたる約26キロの街道です。『日本書紀』の推古天皇21年(613年)の記述に、「難波より京にいたる大道を置く」と記録されている日本最古の国道とされています。聖徳太子の活躍した飛鳥時代、中国や朝鮮半島のすぐれた大陸文化は、四天王寺からこの街道を通って飛鳥の都にもたらされました。多くの渡来人、遣隋使、遣唐使もこの街道をさかんに利用し、また



現在は石畳の道に整備されている竹内街道

にシルクロードの終着点への道でした。しかし、街道も、平城京の誕生で衰退していききました。太子町の名が示すように、この町一帯は聖徳太子ゆかりの地域です。町役場の近くにある叡福寺は、聖徳太子の墓所として知られています。太子町を一望する山手の科長の里には、遣隋使として活躍した小野妹子の墓と伝えられる墳丘が残っています。河内と大和の国境にある竹内峠は、幕末の吉田松陰が青雲の志をもって越えたほか、多くの歴史上の人物が往来しました。竹内街道は、国道166号線として、奈良と大阪を結んでいます。

人生の本舞台

尾崎 行雄

国会議事堂の前にある憲政記念館には「憲政の神様」と言われた政治家、尾崎行雄の銅像があり、「人生の本舞台」と刻まれた石碑があります。「人生の本舞台」とは、尾崎行雄が好んで口にした言葉で、「人は何歳になっても、それまでの人生は序章にすぎず、これからが本舞台なのだ」という意味です。尾崎行雄は1882年(明治15年)立憲改進党の創立に参加し、1890年(明治23年)第1回総選挙で三重県選挙区より出馬し当選。以後63年間に、連続25回当選という不滅の記録をつくりました。大正デモクラシーのなかで、普通選挙運動に参加し、婦人参政権運動を支持しました。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

面白き
こともなき世を
面白く
高杉 晋作